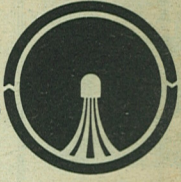


第20号

ほんきょうろ

本郷とは人類の本当の故郷（地上天国）という意味です。従って、本郷路とは地上天国実現のための道路です。（題字は文鮮明師）



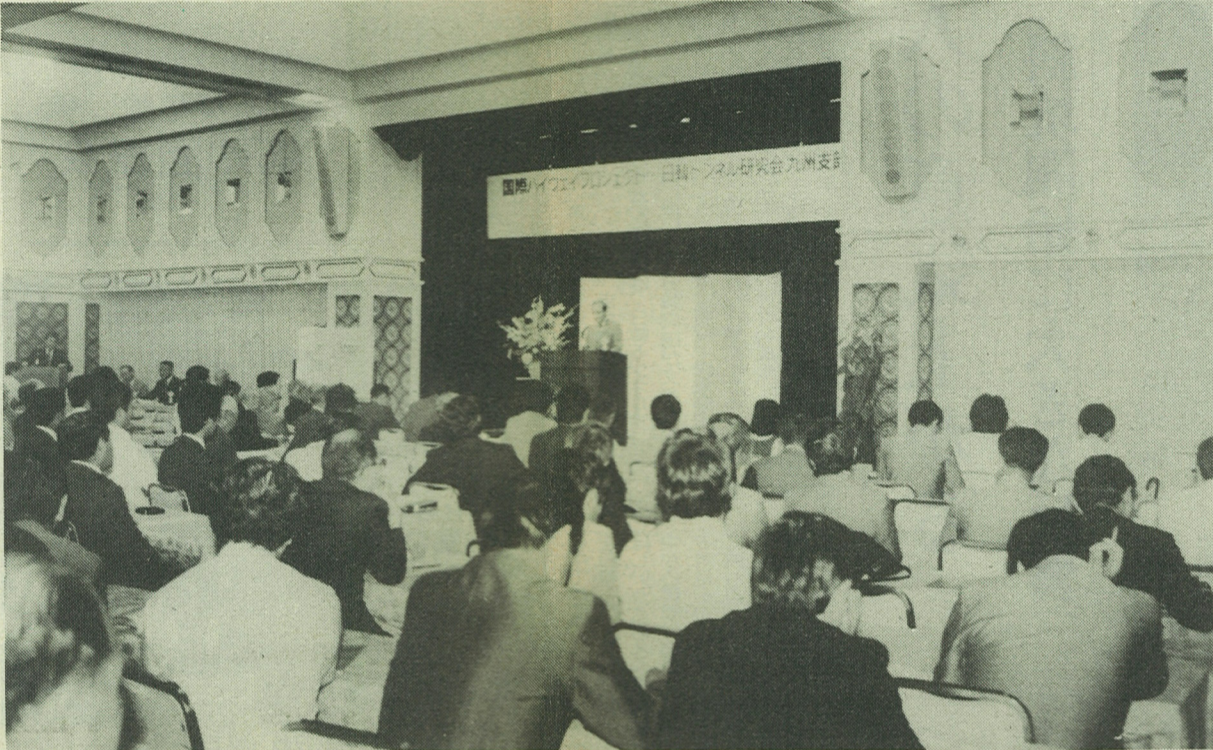
本郷路

昭和61年(1986年)8月1日発行

発行所 国際ハイウェイ建設事業団 東京都渋谷区道玄坂2-10-12 新大宗ビル3号館4F TEL 03(496)2893

THE INTERNATIONAL HIGHWAY CONSTRUCTION CORPORATION

九州から世界へのびる道



総会で調査斜坑の建設が発表されると会場はどよめいた(福岡・西鉄グランドホテル、鳳凰の間)

実現の機運高まる

九州支部総会を開く

国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会九州支部(支部長・高田源清九州大学名誉教授)は、七月十四日、福岡中央区の西鉄グランドホテルで第四回総会を開催した。九州支部設立三周年を記念した総会には、九州全域から会員・一般約三百名が参加し、調査斜坑の建設が発表されるなどトンネルの早期実現へ大きな盛り上がりを見た。また総会に先立ち同ホテル内で、一年間の研究成果の報告会もあられ、多くの技術者が参加して活発な質疑応答が行われた。総会終了後、日韓トンネル建設の地質学的調査(唐津市、吉野、対馬、長崎市でも研究報告会が開かれ、地元有識者の大きな反響を呼んだ。(第一・三・四回記事参照)

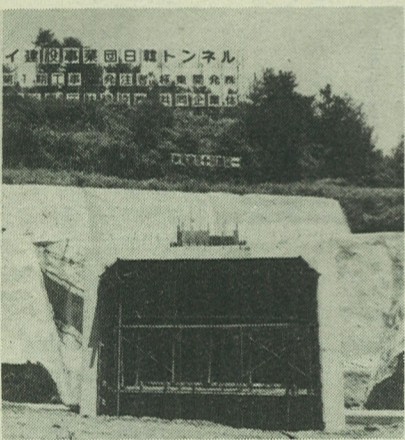
第四回の九州支部総会は、部報告会の終了後、午後六時から西鉄グランドホテルの鳳凰の間(A)で開かれた。総会には、原美雄雄・研究会事務局長の司会で始められ、冒頭の挨拶に立った高田支部長は、「三年間の調査活動を土台としていよいよ調査斜坑の掘削が開始されることになった。今後は九州が中心となるこのプロジェクトを推進してゆこう」と、日韓トンネル計画が建設の段階へはいったことを宣言した。次いで、国際ハイウェイ建設事業団を代表して山岡建雄副理事長が、国際ハイウェイ構想の基本理念を紹介し、「日韓両国が、過去の不幸なきまじきを乗り越えて日韓トンネルで結ばれれば、未来において国と国が協力し合う良き模範となる」と、世界平和を目指すハイウェイ構想の第一歩が日韓トンネル建設であること強調した。そのあと研究会の佐々木支部長が挨拶し、「日韓トンネル実現には、韓国の人達の理解が不可欠である。これからの長大海底トンネルについて、地質学的立場

日韓トンネル研究会

の深い九州が日韓交流の推進役から説明を行った。最後に、真崎貞一郎・九州支部長が閉会の辞を述べ、九州が中心となる日韓トンネル建設運動を推進することを参加者全員で確認し合い、盛会のうちに終了した。その後、引き続き行われた懇親会では来賓の祝辞が相次ぎ、和やかな中にも活発な交流が続けられた。

自由公路

衆参同日選挙の結果は自民党の圧勝に終わった。戦後政治の総決算を訴えて国民の信を問うた中曽根政治が公認されたことになる。今後、国民の圧倒的支持を受けた責任政治として、日本を国際国家へ飛躍させる指導力を発揮してほしい。ところで先日自治体発表による、わが国の人口は男五九百九十九万人、女五九百九十九万人を突破したようだ。しかしこの一年間の増加率をみると〇・五九〇と戦後二番目に低く、人口増加は頭打ちの状態。一方、世帯数の伸びは人口を上回り、世帯当り三・一人と核家族化は更に進行。加えて都市への人口集中も著しく、高齢化と住宅事情の悪化が深刻だ。こうした中で通産省は、老後を海外で過ごす「海外シルバータウン構想」を打ち出した。環境の良い海外に日本人村をつくる構想だが、日本人村への誘引を強めるという図式が今後定着するかもしれない。そこで先日、研究会九州支部長の高田氏は佐々木支部長と共々「戦後四島(四等)国だった日本が、今や道路で結ばれ一島(等)国になった」と熱弁をふるった。今後日本が真に国際国家として飛躍するためには、大陸との密接な結びつきが必要だ。そこで八月を迎え、日本と大陸をつなぐトンネル計画も急進展。唐津では調査斜坑掘削開始を目前にして、最後の仕上げ工事に取っかかっている。



工事中の斜坑現場(坑口となるボックスカルバートが製作されている)

事業団挨拶

日韓トンネル研究会九州支部第四回総会での挨拶より抜粋、要約。

国際ハイウェイ構想は、一年の科学者会議で決議されたものです。同会議は今年で既に十



四回目を迎えますが、ノーベル賞受賞者も含めた世界の科学者五百一十七名が一堂に集って、人類の未来について討議を行い、この会議を通じて人類の幸福のために科学者同士が協力し合おうとしているのです。その第十回会議で文鮮明師に

平和の思想が背景に

国際ハイウェイ建設事業団副理事長

山岡 建雄

流れています。特にこのプロジェクトの先頭に立つ日本と韓国の間には、過去に悲しい時代がありました。

よって提唱された本構想の背後には、このプロジェクトを通して南北問題を貧富の格差と東西問題即ち思想の対立を解消しようとする世界平和の理念が込められています。そして、この二つの面が国境と国民感情を乗り越えて、日韓二つの道路を建設することになれば、今後将来にわたって、国と国が協力し合う良き模範になるものと思われま。

そして、この思想のもとで日韓トンネル計画が出発した訳です。ところが、当初は本構想のよきな計画ということで、実現できるのかという声も強かったわけですが、しかし諸先生方の多方面にわたる協力を得て、今では誰もがやはり実現可能だと認められるまでの調査結果を提出できるようになりました。そして唐津から調査斜坑の建設が開始されるまでになったのです。私も、今後より一層努力してゆくと存じていますが、やはり九州が中心となって韓国への道が建設されてゆくと考えられます。九州の皆様方の更なる御協力をお願い申し上げます。にかえさせていただきます。

未来をつなぐ国際ハイウェイ・プロジェクト

国際文化財団創設者 文鮮明師

私は、一つの提案をしたいと思えます。それは中国から韓国を通り日本に至る「アジアハイウェイ」を建設し、ゆくゆくは、全世界に通じる「自由圏大ハイウェイ」を建設することです。これは中国大陸から韓半島を縦断し、トンネルあるいは鉄橋で日本列島に連結して日本を縦断する一大国際ハイウェイで、ここでは自由が保障されるのです。



もしこれが建設されるなら、アジア諸国はハイウェイで連結され、一体化されることができま。そうすれば、経済や文化の交流が頻繁となり、アジア共同体が形成されるのです。

(第10回科学の統一に関する国際会議での開会挨拶より)

(ご案内)

- ビデオ ●「本郷路」国際ハイウェイ(10~15分、日、英語)
パンフレット ●「国際ハイウェイプロジェクト」(B5判、日、英語)
●「国際ハイウェイ基本構想」(A4判変型)
新聞 ●「本郷路」月刊(タブロイド判4頁)

●お申し込みお問い合わせ ☎03-496-2893



国際ハイウェイ建設事業団

〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-12 新大宗ビル3号館4階 ☎03(496)2893

会員募集

- 正会員 年額 1口 5,000円
●賛助会員 年額 個人 1口 10,000円以上 年額 法人 1口 50,000円以上
●お申し込み先 ☎03-496-9211

国際ハイウェイプロジェクト 日韓トンネル研究会

日本と世界を救う道

三周年を記念した九州支部総会は、市内で繰り広げられる勇壮な博多祇園山笠の熱気そのままに大きな盛り上がりを見せてきた。これまで九州では、トンネル建設の最前線として唐津・吉岐・対馬・大村に現場事務所を設けて積極的な調査活動を行ってきただけに、その進展状況の報告は参加者の大きな関心を集めた。特にこの夏から掘削開始となる調査斜坑建設の発表は、三百名を越す参加者に大きな衝撃を与えた。そして総会終了後の懇親会では、九州が中心となってトンネル建設を推し進めてゆこうというメッセージが相次ぎ、夢実現へ大きな余韻を残しつつ終了した。

日韓トンネル研究会 九州支部 第4回総会



▲親睦を深め合う研究会役員(坂上務・九大名誉教授(右)、兼重修・熊大名名誉教授(中央)、懇親会会場)

「試験的ではありますが、この夏から斜坑の掘削が始まります」と、報告会の冒頭、挨拶に立った高田支部長は調査斜坑の建設を発表した。突然の発表に会場は一瞬静まり返ったが、続いて唐津市鎮西町で進められていた坑口設備工事の様子がスライドで紹介されると、会場から大きな拍手がわきおこった。古代から大陸とのつながりの強い九州を起点として、日本と韓国を結ぶ道路の建設が計画され、試験的に斜坑の掘削が

九州人の意気上がる

斜坑開始に大きな反響

「試験的ではありますが、この夏から斜坑の掘削が始まります」と、報告会の冒頭、挨拶に立った高田支部長は調査斜坑の建設を発表した。突然の発表に会場は一瞬静まり返ったが、続いて唐津市鎮西町で進められていた坑口設備工事の様子がスライドで紹介されると、会場から大きな拍手がわきおこった。古代から大陸とのつながりの強い九州を起点として、日本と韓国を結ぶ道路の建設が計画され、試験的に斜坑の掘削が



▲斜坑開始を契機として、九州が日韓トンネル建設運動の中心になると確認し合った(懇親会会場)



▲今年度の活動計画を報告する山崎達雄部会長(総会会場)

政策・経済等を担当する第一部会は、高田源清部会長が「斜坑建設が開始される今年度は、地元だけでなく吉岐、対馬や長崎、福岡にいたるまで、トンネル建設の理念の啓蒙を続けてゆきたい」と抱負を語った。地形・地質を担当する第二部会は、山崎達雄部会長が「これまでには

「斜坑開始を契機として、九州が日韓トンネル建設運動の中心になると確認し合った」と確認し合った(懇親会会場)

「斜坑開始を契機として、九州が日韓トンネル建設運動の中心になると確認し合った」と確認し合った(懇親会会場)

「斜坑開始を契機として、九州が日韓トンネル建設運動の中心になると確認し合った」と確認し合った(懇親会会場)

「斜坑開始を契機として、九州が日韓トンネル建設運動の中心になると確認し合った」と確認し合った(懇親会会場)

「斜坑開始を契機として、九州が日韓トンネル建設運動の中心になると確認し合った」と確認し合った(懇親会会場)

「斜坑開始を契機として、九州が日韓トンネル建設運動の中心になると確認し合った」と確認し合った(懇親会会場)

主催者・来賓あいさつ

試掘の段階へ突入
九州支部支部長
高田源清

この三周年、実現を目指してさまざまな調査・研究を行ってまいりましたが、今年からいよいよ試掘の段階へはいつまでもまわらぬ。当初、「雲の

試掘を目前に控えた今、九州が中心となって今までのようにこのプロジェクトを進めてゆかねばならないと感じる次第です。それに加え、韓国との関係も重視してゆく必要があるでしょう。

建設運動の拡大を
九州支部支部長
真崎寅二郎

本日の報告会で、もうトンネル着工の段階にきていることをうかがい、その進展の早さに驚いた次第です。これも多くの先生方の涙まじしい努力の賜物であらうと深く感謝

今後は、東京から九州へとプロジェクトの中心が移ってゆくことになろうかと思いますが、御出席の皆様方の更なる協力を得て、今後より一層この建設運動を広げてゆきたいと意気込んでおります。

離島を本土とつなぐ
司会者
坂口義臣

本日の報告会で、もうトンネル着工の段階にきていることをうかがい、その進展の早さに驚いた次第です。これも多くの先生方の涙まじしい努力の賜物であらうと深く感謝

日韓交流の中心に
日韓トンネル研究会会長
佐々保雄

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

夢という言葉がこれまでもよく出てきましたが、まさしくこの事業は男子一生涯のロマンではないかと思えます。私自身、青函トンネルから日韓トンネル、青函プロジェクトに関わりをもつてまいりましたが、青函は国内の問題、そして日韓は二

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。



本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

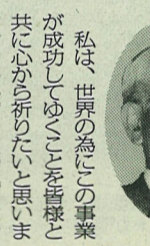
本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。



本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

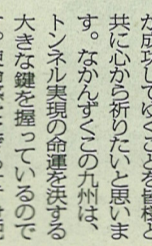
本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。



本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

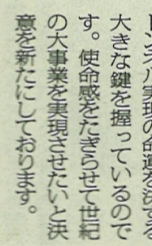
本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。



本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

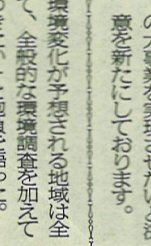
本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。



本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

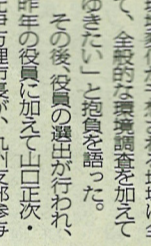
本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。



本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

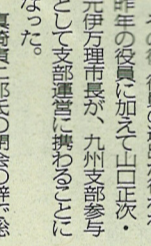
本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。



本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

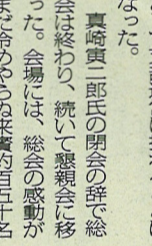
本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。



本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

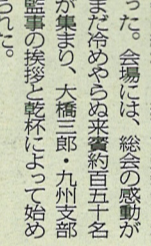
本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。



本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

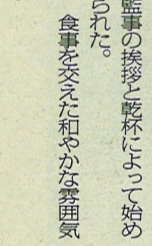
本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。



本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。



本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会と総会に、こんなにも多くの皆様方に参加して頂きまして、厚く御礼申し上げます。

日韓トンネル研究会 九州支部役員

- 【支部長】 高田源清 九州大学名誉教授
- 【副支部長】 賀来宗光 長崎県東来病院院長
- 兼重修 熊本大学名誉教授
- 中富正義 久光製薬会長
- 山崎達雄 九州大学名誉教授
- 【顧問】 太田誠一 衆議院議員
- 三原朝雄 前衆議院議員
- 【参事】 黒木一夫 南都工務店顧問
- 田口昭二 平戸商工会議所会頭
- 田代信雄 西日本技術開発社長
- 真崎寅二郎 長崎県建設事務所
- 高崎善吾 佐賀県経済調査協会専務理事
- 山口正次 元伊万里市長
- 山崎鋼秋 富士ヒューズコンクリート社長
- 【監事】 谷本二郎 弁護士
- 大橋三郎 福岡県民教育協議会常任理事
- 【理事】 相原安津夫 九州大学助教授
- 石堂稔 九州産業大学教授
- 伊東尚美 日本地研社長
- 大内和臣 西南学院大学教授
- 表俊一郎 九州産業大学教授
- 梶山茂 共立病院院長
- 鎌田泰彦 長崎大学教授
- 唐木芳文 西南学院大学教授
- 川上三郎 西南学院大学教授
- 久保久盛 長崎大学名誉教授
- 小出悠一 佐世保商業組合相談役
- 近藤満雄 九州産業大学教授
- 坂上務 九州大学名誉教授
- 白水伊久男 サニートワイブ代表取締役
- 高橋清 長崎大学教授
- 西田正 九州大学教授
- 細川深 福岡大学教授
- 松尾千秋 弁護士
- 三山忠 自由民主党対馬連合協議会会長
- 光吉健次 九州大学教授
- 武藤正行 国土庁大学教員
- 村上良丸 宮崎大学教授
- 保田正人 長崎大学学長
- 山内豊聡 九州大学名誉教授
- 渡辺尊 佐賀県農業共済組合連合会会長

☆印は新役員を示す
△昭和六十一年八月一日現在

実現へ確かな手づごたえ

日韓トンネル研究会は、九州支部総会の終了後、七月十五日から、トンネル建設の拠点となる唐津市、杵岐、対馬、長崎市、日韓トンネルの報告会を開いた。トンネルの早期実現を確認し、白くて大きく盛り上がった総会のあとに、連日開かれた報告会でも、地元の有識者が多数参加して早期建設を願う挨拶が相次ぎ、この計画に対する地元の関心の高さがうかがえた。そして研究会役員と参加者の間で、白熱した質疑応答が繰り返された。また報告会では、調査斜坑建設の発表も行われたが、身近なところで思いもかけないほど早く進められているトンネル計画に、参加者の間から驚きの声もあがった。また唐津報告会に出席した佐々会長、高田支部長ら研究会役員一行は、藤橋所長の案内で唐津の斜坑現場を視察し、専門家の立場から斜坑建設に対するさまざまなアドバイスを与えた。今回は、実現を目指して大いに盛り上がった現地での報告会をもよおすをルポしてみた。

現地ルポ



唐津報告会に先立って、研究会役員は斜坑現場を視察した

地元は早期建設願う

日韓トンネル研究会 現地報告会

●唐津報告会

唐津報告会は、七月十五日午後六時から唐津シーサイドホテルで、有識者約五十名を集めて開催された。

報告会に先立ち佐々会長、高田支部長ら研究会役員は事業団唐津事務所を訪れ、斜坑の建設現場を視察した。藤橋所長の案内で斜坑現場に立った佐々会長は、掘削を目前にして活気あふれる現場の様子に驚いた。今や日本も鉄道の子で、水野工部局長の説明に熱心な耳を傾けていた。遠く杵岐を望む斜坑基地から、将来のトンネル建設の報告には、道であることを感じた。

次に佐々会長が日韓トンネル計画の経過報告を行い、そのあと田村教授が環境部会の活動状況と浅茅湾での生態系調査の概要を報告した。

そしていよいよ唐津から開始される調査斜坑の報告に続いて、地元で進められている工事にだけ参加者の関心もひとまわり高く、藤橋所長の説明とスクリーンに写し出される工事の様子も、目を離せながら大きく頷いていた。夢の大事業が、唐津から着々と進められていること、参加者は大きな満足と希望をもったようであった。

●杵岐報告会



▲参加者に大きな感動を与えた杵岐報告会



▲対馬報告会では分会設立を望む声もあがった

●対馬報告会

対馬報告会は、七月十六日午後六時から、対馬交通ホテルで開かれ、松村長幸・美津島町長ら約四十名が出席した。

先ず高田支部長が開会の挨拶に立ち、次に地元代表として長崎市長は、この計画実現のためには、我々地元人間が自分達の責任をもちたいという意欲が必須であること、この計画は世界平和のため、対馬のために非実現させなければならぬと語り、トンネルが二十一世紀に主眼となる道であること強調した。

その後、佐々会長の経過報告として斜坑建設の紹介と、長崎大学の高橋教授が対馬の地質について発表を行った。更に田村教授が地元浅茅湾の生態系調査の報告を行い、出席者の表情がぐっと引き締まった。

その後、食事を囲んで質疑応答があったが、ルートや浅茅湾の調査に関する重要な具体的な意見交換が行われた。そして出席者の中から対馬にも研究会分会の設立をという声もあがり、盛りのうちに終わった。

●長崎報告会

七月十九日、長崎市の自治会館で行われた長崎報告会には、約百五十名が出席した。

ハイウェイ紹介のマルチビジョン終了後、高田支部長が開会の挨拶を行った。同支部長は、長崎がかつて日中交流の窓口であったことを述べ、「我々は国民全体の利益のためにも協力し合おう。将来に向けて、離島を救い日本を救うため中



▲長崎報告会は地元大きな影響を与えた

世話人挨拶

むし暑い中、日韓トンネルの報告会にこんなにも多くの方々に御出席頂きまして、世話人を代表して厚く御礼申し上げます。

高田支部長が開会の挨拶で語られましたように、日韓トンネル研究会の設立から満三年が経過しました。

調査活動に理解を

長崎大学教授 高橋 清



国へ行くこのトンネル建設に協力を願いたい」と話した。

続いて、世話人を代表して長崎大学の高橋清教授が挨拶に立ち、また久間章生・衆議院議員の祝電も披露され、その後、研究成果の報告へと移った。

参加者にとってこれらの報告は初めて耳にする内容であったが、現実に進められているトンネル計画に目を輝かせながら聞き入っていた。

その間、九州から杵岐、対馬を通って韓国に至る日韓トンネルの実現を目指して、理念を掲げ第一歩から環境問題を検討する第四部会まで、それぞれの専門分野にわかれていろいろな角度から調査・研究活動が行われてまいりました。

その調査内容の一部が先日、願っていたように、

長崎報告会

解を頂きたいと存じます。

本日は、研究会の各部会報告と同時に、唐津の調査斜坑建設の紹介もありました。短い時間ですが、活発な質疑応答

日韓トンネル・長崎報告会プログラム

開会挨拶	日韓トンネル研究会九州支部長	高田源清
世話人代表挨拶	長崎大学教授	高橋 清
【第1部会】		
①アジア高速道路網最適投資計画の評価のための経済効果計測	●筑波大学教授	河野博忠
②西日本の大規模プロジェクトに関する基礎調査	●地域設計研究所(株)九州事務所所長	加川邦明
【第2部会】		
③日韓トンネル計画杵岐地区水文調査	●八千代エンジニアリング(株)取締役	高橋彦治
④長崎県の地質について	●長崎大学教授	高橋 清
⑤第2部会調査概要	●九州大学名誉教授	山崎達雄
【第3部会】		
⑥海底トンネル計画、施工法、防災及び橋梁計画	●(株)熊谷組専務取締役	北原正一
【第4部会】		
⑦浅茅湾の多目的開発を目的とする生態系調査	●北海道大学名誉教授	辻田時美
【事業団】		
⑧調査斜坑掘削について	●唐津事務所所長	藤橋健次
質疑応答		